令和５年度学校評価報告書

北海道室蘭養護学校

１　本年度の重点目標

子どもたち一人一人の可能性を引き出す教育実践の推進
・児童生徒の安全・安心な学校生活を第一に、人権を尊重した学校経営を推進する。
・教職員の働き方改革やメンタルヘルス対策など働くことに喜びが湧く職場環境づくりを推進する。
・障害の状態等に応じた効果的なＩＣＴの活用を推進する。
・家庭・学校・寄宿舎・学校事務室と連携した指導の充実を推進する。

２　自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

・重点的に改善が必要な項目等について掲載します。

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
平均値が最も低く、重点的な改善が必要な項目など	【教職員】 最も低い平均値は「児童生徒の授業の準備や指導に生かせる会議の確保ができている」「働き方改革を意識したタイムマネジメントができている」の項目で2.5であり、それぞれ、昨年度比-0.2ポイント、－0.3ポイントである。 関連項目の「時間や目的を明確にした効率的な会議や打ち合わせが行われている」が昨年度と比較して-0.4ポイントとなっていることから、働き方や会議のもち方に対する課題意識が大きいと考えられる。	【保護者・施設】 最も低い平均値は「学校の職員が働き方改革を意識して業務にあたっていることを知っている」「ＰＴＡの活動は保護者間の連携を十分にとる事ができる活動となっていますか」の項目で2.7であり、それぞれ、昨年度比-0.1ポイント、-0.3ポイントである。これらの項目は評価０（分からない）の割合が20%、17%と他の項目より高いことが要因と考えられる。 【学校運営協議会】 令和６年２月６日開催の「令和５年度第３回学校運営協議会」において、学校評価集計表を確認した。教職員の働き方についての課題と学校づくりについて、委員の皆様からのご意見をいただいた。
改善方策	今年度の１人あたりの時間外在校等時間（平均超過時間）は、これまで月目標（月45h）を超えておらず、超過時間が月45ｈを超える教育職員の割合は全道と比較すると下回っている。反面、一部の職員の超過時間が大きくなる傾向にある。そのため、時間をかけてやらねばならない業務と費用対効果の小さい業務の精選、心理的安全性を高め、ポジティブで当事者意識をもった職員集団づくりのための取組を継続的に行っていく。	
自己評価よりも、学校関係者の数値の方が低い項目	保護者からの評価が教職員による評価を下回る項目は「保護者との進路に関する情報共有」（教職員No.20、保護者No.５）と「ＰＴＡの活動について」（教職員No.30、保護者No.11）であった。 結果から、進路や福祉制度、サービス等に関する情報共有について、保護者はより分かりやすい説明を求めていると考えられる。また、ＰＴＡの活動について教員は理解しているものの、保護者は保護者間の連携をとる活動になっていないと感じていると考えられる。	
改善方策	資料の配布だけではなく、さらに機会を捉えて担任・進路担当等から丁寧な説明を行う。また、ＰＴＡ役員の意見を聞きながら、より充実した活動になるよう推進する。	
自由記述に関して	「他機関との連携と教職員の働き方改革について」「スクールバスのバス停や送迎について」「働く力を伸ばす指導」に対するご意見、ご要望があった。	
改善方策	担当分掌・委員会等で具体的な改善策と期日について検討を行う。	